

ESSEの 気ままに エリアレポート ～函館市五稜郭エリア～

施設 五稜郭

1854年の日米和親条約締結による箱館開港に伴い、箱館奉行所として設置されたのが五稜郭でした。当時ヨーロッパで発達していた「城郭都市」をモデルとして設計され、このヨーロッパ式の土塁の構造の特徴でもある稜堡が5ヶ所置かれている星型から、通称「五稜郭」の名前がつけました。北海道唯一の国指定特別史跡にも定められています。

また1914年に公園として一般公開され、現在では春は5,000株の桜が咲く名所として、冬は堀の雪景色が美しい夜景として四季折々の情景を楽しめる観光客にも人気のスポットです。隣の五稜郭タワーからは公園全体を一望できます。



幕末の歴史舞台で にぎわう暮らし

スポーツ 千代台公園

千代台公園は野球場・陸上競技場・市民プールなどの施設を兼ね揃えた運動公園です。中でも屋外野球場は昨年10月より始まった25年ぶりの大規模改修を終え、今年5月にリニューアルオープン、函館市を本拠地とする社会人野球チーム「函館太平洋倶楽部」に因んで、オーシャンスタジアムの愛称で呼ばれています。少年野球や陸上の中高体連、函館マラソン等の大会はもちろん、日頃から運動するなら、と自然と足の向く施設として地元民に慣れ親しまれています。

函館市の家賃相場は？
【1LDK】 5.92万円
【2LDK】 6.94万円
(管理費等を除く)



歴史 千代台の由来

千代台はその昔、鶴が飛来する小高い岡でした。江戸中期8代松前藩主が「鶴は千年亀は万年」の千年の鶴から千代の字を使い、「千代の岡」と名付けたのが始まりになります。

その後、幕末に入り蝦夷地出兵を命じられた仙台藩が出張陣屋の拠点を設定し、「千代ヶ岡陣屋」と呼ばれていました。後に津軽藩がここを拠点とし「津軽陣屋」を構えていましたが、津軽藩撤退後、新政府軍との激戦の地となり陣屋は落とされました。

交通 函館市電

湯の川温泉と函館区域の交通を担っていた馬車鉄道に代わり、1913年に登場したのが函館の路面電車でした。今では函館観光の主要スポットが各停車駅となっており観光ルートとしても市電の沿線は親しまれています。30種以上にも渡る車両の中でも函館市制70周年記念に復元された「箱館ハイカラ号」はレトロな期間限定車両として人気を集めています。

100年以上もの時間を共に歩んできた函館の中心を走る市電は、市民の足であり、また函館を彩る景観としても広く愛されています。